
市川町農業景況調査

2021年通年

市川町商工会

目 次

I. 調査要領.....	1
1. 調査目的.....	1
2. 管内調査.....	1
II. 管内調査結果.....	2
1. 業況.....	2
2. 採算の状況.....	4
3. 資金繰りの状況.....	6
4. 人材の状況.....	7
5. 設備投資の実施状況.....	8
6. 今後の経営方針.....	10

1. 調査要領

1. 調査目的

管内の農業者の景気動向について、その実態を把握すると共に、全国の情勢との違いを把握する。
(全国の情勢は、日本政策金融公庫「農業景況調査」の調査結果を参照した。)

2. 管内調査

市川町商工会管轄内の農業者を対象に、アンケート調査を実施した。

- (1) 対象農業者数…5者
- (2) 調査方法…商工会の職員による訪問面接調査
- (3) 調査対象期間…2021年1月から12月末の年間を対象とした。

※指標について

本報告書のD Iとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目において増加・上昇・好転とした事業者割合から、減少・低下・悪化とした企業割合を引いたものである。

II. 管内調査結果

1. 業況

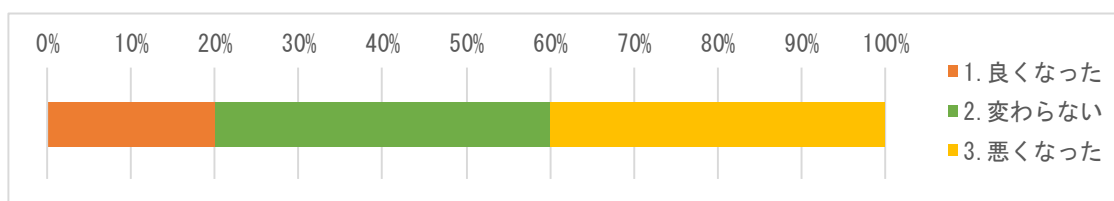
(1) 業況D I (2021年通期)

2021年の業況が「良くなった」と回答したのは1者、「変わらない」「悪くなった」と回答したのは2者ずつであり、D Iは▲20.0であった。

全国のD Iは▲29.6であった。業況が悪くなった点は、全国と市川町で共通している。ただし、市川町の方が、業況悪化の程度が緩やかである。

図表1. 業況D I (2021年通期)

農業者数				構成比			市川町	全国
1.良くなった	2.変わらない	3.悪くなった	合計	1.良くなった	2.変わらない	3.悪くなった	DI	DI
1	2	2	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲29.6



(2) 業況判断の背景 (自由回答)

「良くなった」と回答した背景は、「巣ごもり需要で野菜の販売量が増加した」という要因であり、「悪くなった」と回答した背景は、「取引先販売店の再編や消費動向の変化などにより、今後市場縮小が懸念される」という要因であった。

どちらも、新型コロナウイルス感染症による社会・経済動向の変化が影響している。

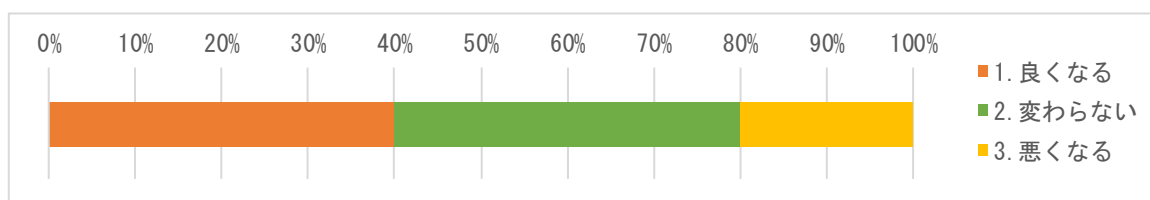
(3) 業況D I (2022 年見通し)

2022 年通期の業況見通しが「良くなる」「変わらない」と回答したのは 2 者ずつ、「悪くなる」と回答したのは 1 者であり、D I は 20.0 であった。

全国の D I は▲28.7 であった。2022 年については、全国に比べ、市川町の方が明るい見通しを持っている。

図表 2. 業況D I (2022 年見通し)

農業者数				構成比			市川町	全国
1.良くなる	2.変わらない	3.悪くなる	合計	1.良くなる	2.変わらない	3.悪くなる	DI	DI
2	2	1	5	40.0	40.0	20.0	20.0	▲28.7



2. 採算の状況

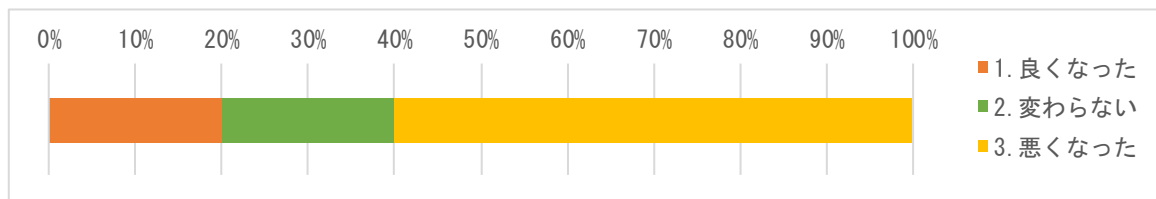
(1) 採算D I

採算が「良くなった」と回答したのは1者、「悪くなった」と回答したのは3者であり、D Iは▲40.0であった。

全国のD Iは、▲35.1であった。全国とほぼ同じ水準ながら、市川町の方が、やや採算の状況が悪くなっている。

図表3. 採算D I

農業者数				構成比			市川町	全国
1.良くなった	2.変わらない	3.悪くなった	合計	1.良くなった	2.変わらない	3.悪くなった	DI	DI
1	1	3	5	20.0	20.0	60.0	▲ 40.0	▲35.1

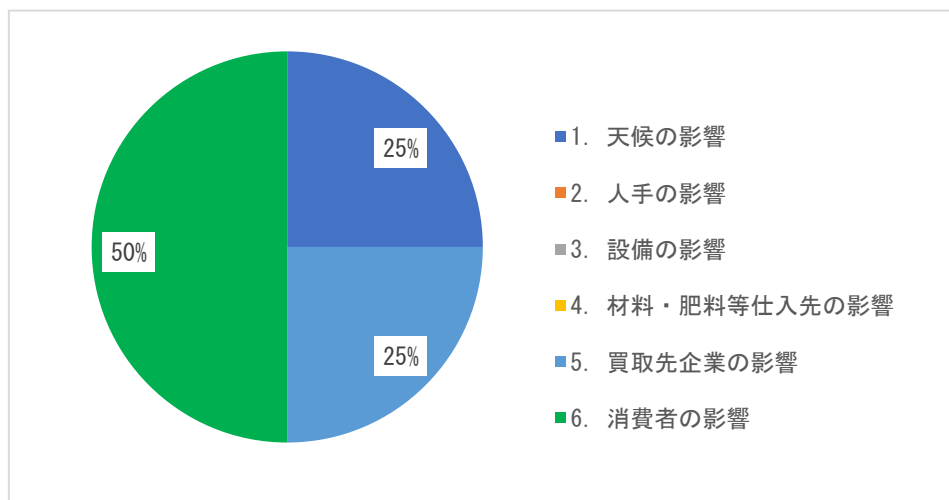


(2) 収支が好転、または悪化した理由

採算が「悪くなった」と回答した3者は、「1.天候の影響」「5.買取先企業の影響」「6.消費者の影響」を理由とした。一方、「良くなった」とした1者も、「6.消費者の影響」を理由として回答した。

消費者動向がプラスにも、マイナスにも働くことがわかった。

図表4. 採算好転悪化の理由



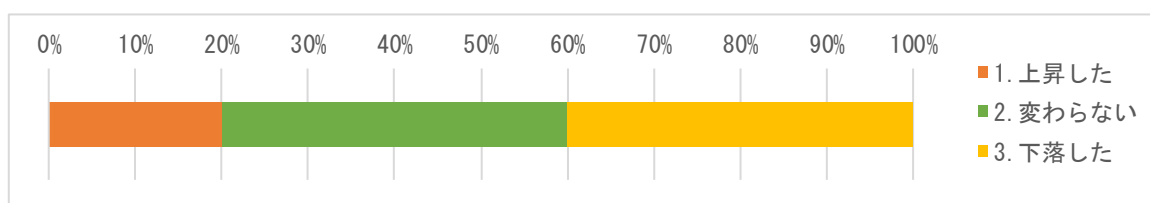
(3) 販売価格D I

販売価格が「上昇した」と回答したのは1者、「下落した」と回答したのは2者であり、D Iは▲20.0であった。

全国のD Iは▲42.6であった。販売価格が下落する傾向は、全国と市川町で共通している。ただし、下落の程度は、市川町の方が緩やかである。

図表5. 販売価格D I

農業者数				構成比			市川町	全国
1.上昇した	2.変わらない	3.下落した	合計	1.上昇した	2.変わらない	3.下落した	DI	DI
1	2	2	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲42.6



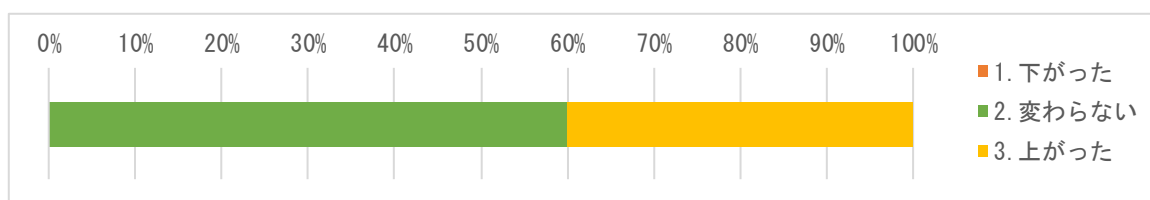
(4) 生産コストD I

生産コストは、「上がった」と回答したのは2者いる一方で、「下がった」と回答した農業者はいなかった。市川町のD Iは、▲40.0であった。

全国のD Iは▲68.1であった。全国と市川町ともに、生産コストが上昇傾向にある。

図表6. 生産コストD I

農業者数				構成比			市川町	全国
1.下がった	2.変わらない	3.上がった	合計	1.下がった	2.変わらない	3.上がった	DI	DI
0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	▲68.1



3. 資金繰りの状況

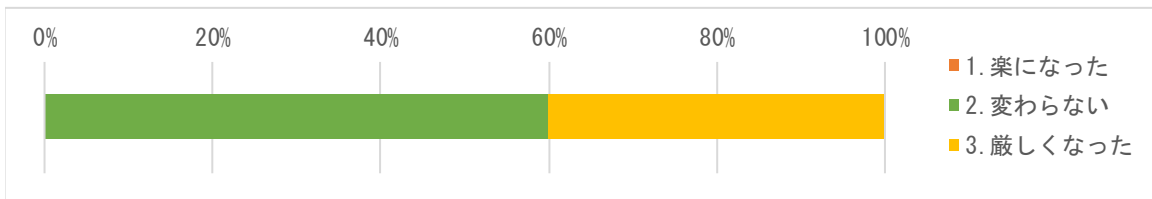
(1) 資金繰りDI

「1.楽になった」がゼロの一方で、「3.厳しくなった」との回答が2者あり、DIは▲40.0だった。

全国のDIは▲24.7であった。全国よりも市川町の数値が低く、資金繰りの状況が厳しいことがわかった。

図表7. 資金繰りDI

農業者数				構成比			市川町	全国
1.楽になった	2.変わらない	3.厳しくなった	合計	1.楽になった	2.変わらない	3.厳しくなった	DI	DI
0	3	2	5	0.0	60.0	40.0	▲40.0	▲24.7



4. 人材の状況

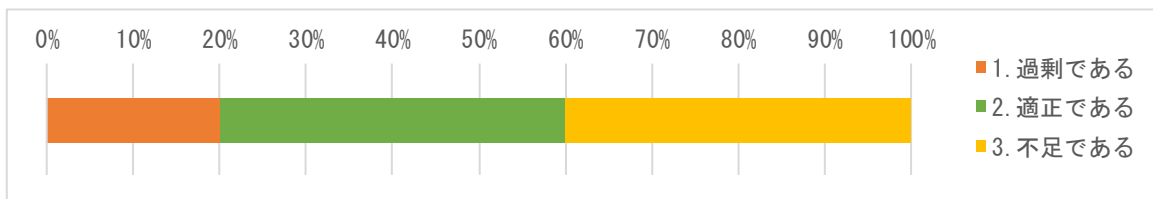
(1) 人材D I

人材が「過剰である」と回答した農業者は1者で、「不足である」と回答したのは2者であり、D Iは▲20.0であった。

全国のD Iは▲35.6であった。人材不足の傾向は、市川町と全国で共通している。ただし、人材不足の程度は、市川町の方が緩やかである。

図表8. 人材D I

農業者数				構成比			市川町	全国
1.過剰である	2.適正である	3.不足である	合計	1.過剰である	2.適正である	3.不足である	DI	DI
1	2	2	5	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲35.6

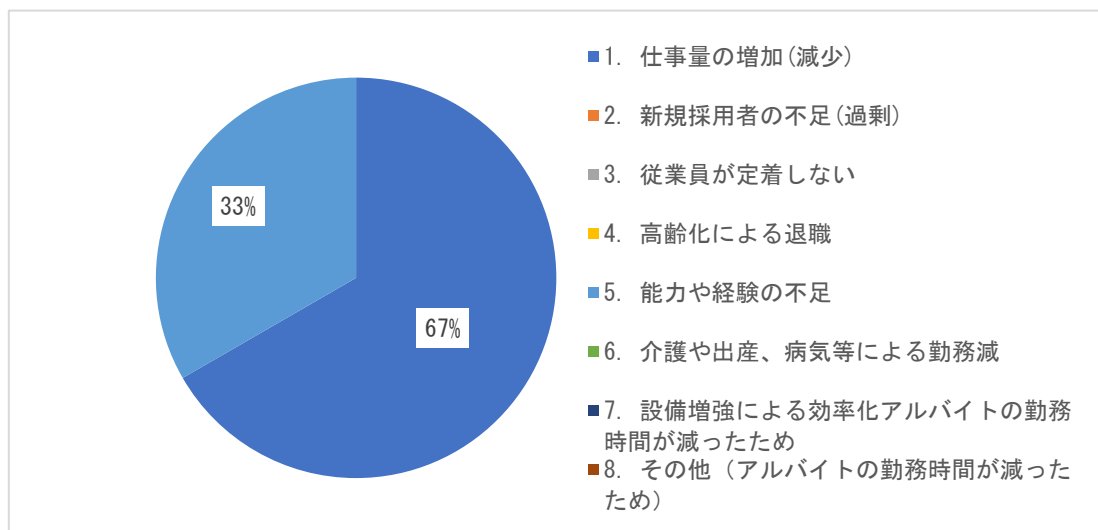


(2) 人材が過剰又は不足の理由

人材が「過剰である」と回答した1者は、「1. 仕事量の増加(減少)」を理由とした。

人材が「不足である」と回答した2者のうち、1者が「1. 仕事量の増加(減少)」を挙げ、1者が「5. 能力や経験の不足」を挙げた。

図表9. 人材過不足の理由

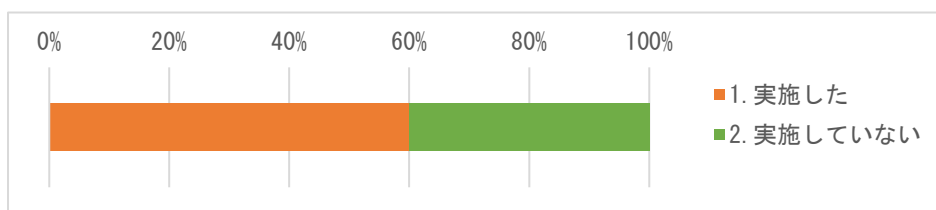


5. 設備投資の実施状況

(1) 2021年の設備投資

2021年に設備投資を「実施した」と回答したのは3者、「実施していない」と回答したのは2者であった。

農業者数			構成比		全国 「実施した」
1.実施した	2.実施していない	合計	1.実施した	2.実施していない	
3	2	5	60.0	40.0	—



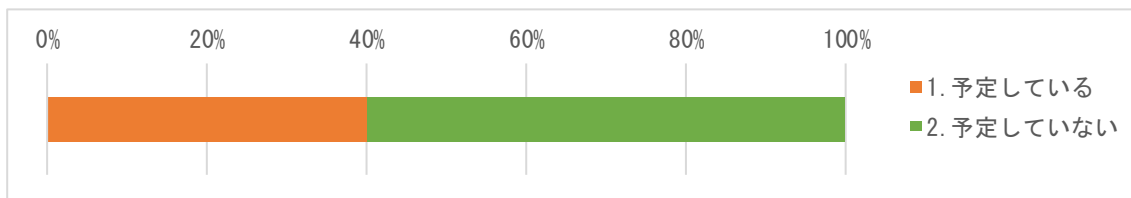
(2) 2022年の設備投資

2022年の設備投資を「予定している」と回答したのは2者(40%)、残り3者は「予定していない」と回答した。

全国の調査で「予定している」と回答した者は46.3%であった。市川町に比べ、全国の方が、設備投資に対してやや前向きである。

図表10. 2022年の設備投資実施状況

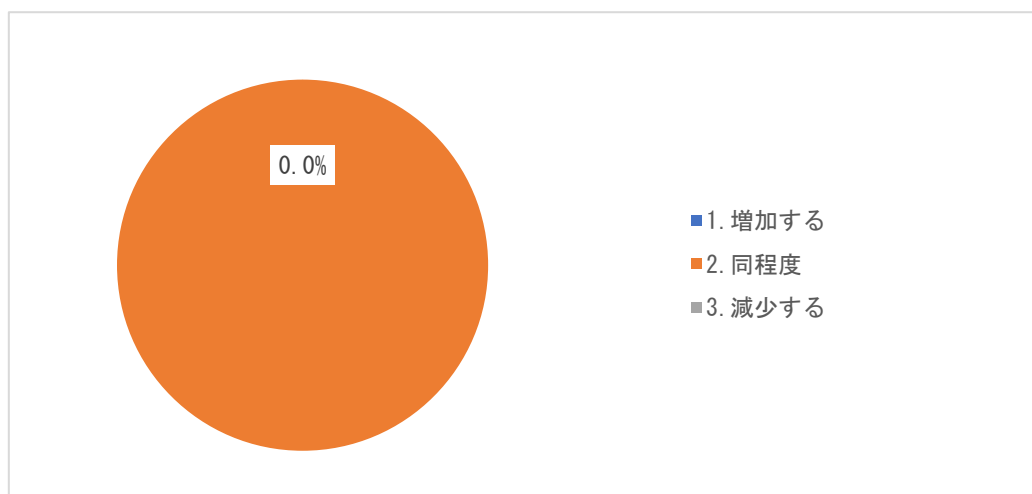
農業者数			構成比		全国 「予定している」
1.予定している	2.予定していない	合計	1.予定している	2.予定していない	
2	3	5	40.0	60.0	46.3



(3) 前年と比べた 2022 年の設備投資額

2022 年に設備投資を予定している 2 者いずれも、前年と比べて設備投資額は「同程度」と回答した。

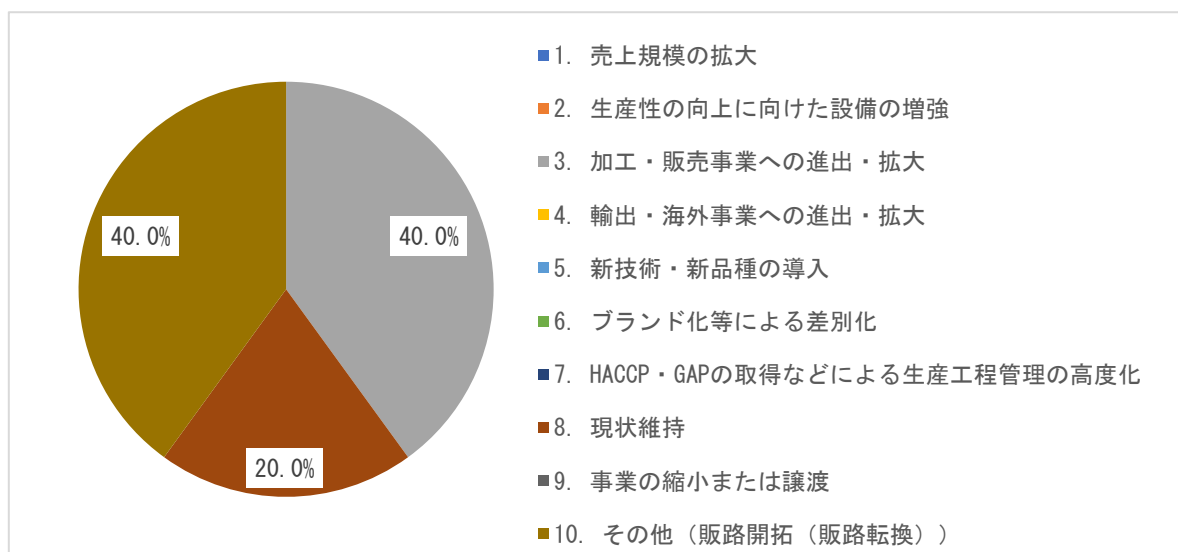
図表 1 1 . 前年と比べた 2022 年の設備投資額



6. 今後の経営方針

今後の経営方針について最も重視するものを、「加工・販売事業への進出・拡大」と回答したのは2者、「現状維持」と回答したのは1者だった。「その他」と回答したのが2者あり、「販路開拓」「事務負担の軽減」を重視する項目に挙げた。

図表 1 2. 今後の経営方針



【参考資料】 自由記述回答

問 2-2 業況判断の背景について、貴社が感じておられることをお書きください。

取引先量販店の再編や消費動向の変化などにより、今後市場縮小が懸念材料となる。

巣ごもり需要で野菜の販売量が増加した

問 4 その他、地域の景況についてや、商工会へのご意見ご要望等、ご自由にお書きください。

コロナの影響で酒米の需要が落ち込み、生産している酒米の販売がかなり下落している